

高梁川流域 キッズ

たかはしがわゆういき
高梁川流域の
し て い ぶん か ざい し せき
指定文化財(史跡)



- ★ 場所
・倉敷市真備町下二万
- ★ 時代
・古墳時代
- ★ 指定年月日
・平成17(1965)年
12月5日
- ★ 所有
・迦摩神社

にまおおつかこふん 二万大塚古墳

新高総早
見梁社島
市市市町市
倉敷市
矢井浅里笠
掛原口庄岡
町市市町市



この史跡について

二万大塚古墳は、真備町を東西に流れる小田川に南から流れ込む小支流二万谷川が形成した谷の東岸にあります。

平成13(2001)年から平成16(2004)年にかけて、岡山大学考古学研究室による発掘調査が行われました。

調査の結果、全長38mの前方後円墳で、北側の括れ部には造り出しを持つことも確認されました。ここからは人物埴輪、家形埴輪や多数の円筒埴輪さらに須恵器が整然と並べられ、祭壇状施設となっていたことが明らかになりました。

埋葬主体としては後円部に横穴式石室を持つことが確認され、石室は両袖式で全長9.1m、玄室の長さは4.7m、幅は奥壁で2.5mの規模で、比較的小振りの石材を5～7段に積んでいました。

石室から須恵器、土師器、鉄器、馬具のほか装身具として耳環、玉類が出土しています。須恵器の時期は6世紀中頃から6世紀後半までの幅があり、数度の追葬が行われていたと考えられています。

以上のように岡山大学による発掘調査によって、二万大塚古墳は高梁川西岸で最終段階の唯一の前方後円墳とい

うこれまでの評価だけではなく、横穴式石室を持つ前方後円墳では吉備で最も古い古墳であることがわかりました。

これによって、前方後円墳で横穴式石室を持っている総社市のこうもり塚古墳などとあわせて整理・研究が進めば、当時の首長間の関係がもっとくわしくわかることが期待されます。